

非漢字圏出身私費留学生のニーズと特徴

—日本学生支援機構・私費留学生生活実態調査の分析結果から—

Needs and Characteristics of Self-funded Students

from Non Chinese Character Using Countries:

From the Analysis of JASSO Survey on the Self-Funded Students

東京工業大学環境・社会理工学院融合理工学系准教授 佐藤 由利子

SATO Yuriko

(Dept. of Transdisciplinary Science and Engineering, Tokyo Institute of Technology)

キーワード：留学生支援、留学生の経済状況、留学生の就職

はじめに

2011年から2015年にかけて、中国人留学生が10%、韓国人留学生が25%減少する中、ベトナム人留学生が7.7倍、ネパール人留学生が5.5倍に増加するなど、非漢字圏出身留学生¹が大きく増加した。このことは、中国、韓国からの留学生の減少に危機感を抱いていた留学生教育関係者にとって、大いに歓迎すべき出来事であり、「世界の成長を取り込むための外国人留学生の受入れ戦略」（戦略的な留学生交流の推進に関する検討会，2013）において東南・南西アジアなどの非漢字圏諸国が受入れ重点地域に位置づけられていることにも呼応した動きと言えよう。

他方、非漢字圏出身留学生は漢字圏出身者に比べ、「日本語習得に時間がかかる」、「日本との文化的差異が大きい」など、日本社会に適応するためのハードルが高い傾向があり、教育現場においてもより多くの配慮や支援が求められている。また、同じ非漢字圏出身者であっても、日本語学校と大学院英語コースの在籍者では特徴や意識が異なり、求められる配慮や支援の内容も変わると考えられる。特に私費留学生は、留学費用支弁の必要からアルバイトに従事する者も多く、学業とアルバイトの両立への目配りも必要である。

このため本稿では、日本学生支援機構による『平成27年度私費外国人留学生生活実態調査』の回答を、漢字圏出身者（中国、韓国、台湾）と非漢字圏出身者（上記3カ国以外）、さらに日本語教育機関、専修学校、大学（学部、修士、博士課程）在籍者に分け、その特徴、意識、生活状況を比較し、

各学種・課程で学ぶ非漢字圏出身留学生の特徴とニーズについて、考察することを目的とする。

私費留学生は日本留学生の93.8%を占め、近年の留学生の増加は主に非漢字圏からの私費留学生に拠っている。『私費外国人留学生生活実態調査』は、日本で最も大掛かりな私費留学生調査であるところ、この回答データに基づき、非漢字圏出身者のニーズや生活実態を解明することは、今後の日本の私費留学生の誘致や教育体制の改善に向けて、有用な示唆を導くことにつながると考えられる。

本稿の構成としては、まず第1章で『私費外国人留学生生活実態調査』の概要を紹介し、第2章では、本調査の日本語教育機関、専修学校、大学（学部、修士、博士課程）在籍者の回答を、非漢字圏出身者、漢字圏出身者に分けて分析する。第3章では、第2章の分析結果に基づき、非漢字圏出身留学生に必要な配慮や支援について考察を行う。

1. 私費外国人留学生生活実態調査の概要

『私費外国人留学生生活実態調査』は、1991年より²、2年に1度、定期的実施されている。平成27年度の調査では、2016年1月に7,000人に対してアンケートを送付し、6,036人から有効回答を得た（回答率は86.2%）。調査依頼先の内訳は、国立大学68校1,074人、公立大学15校136人、私立大学217校2,633人、短期大学20校59人、専修学校（専門課程）95校1,182人、準備教育課程9校85人、日本語教育機関144校1,831人である。調査対象の私費留学生には、政府派遣留学生、在籍期間が1年未満の交換留学生、短期留学生は含まない。

『平成27年度私費外国人留学生生活実態調査』の回答者の主な属性は次の通りである。

回答者の性別の内訳は、男性が3,012人（49.9%）、女性が2,875人（47.6%）であった。

出身国・地域別の回答者数は、「中国」が最も多く2,985人（49.5%）、以下「ベトナム」が781人（12.9%）、「韓国」が533人（8.8%）、「ネパール」が439人（7.3%）、「台湾」が217人（3.6%）と続いており、アジア出身者が全回答者数の95.1%となっている。

回答者の学種・在籍段階別の回答者数は、回答者の多い順に、「学部正規課程」が1,806人（29.9%）、「日本語教育機関」が1,533人（25.4%）、「専修学校（専門課程）」が1,038人（17.2%）、「大学院修士課程・博士前期課程」が733人（12.1%）、「大学院博士課程・博士後期課程」が380人（6.3%）、「準備教育課程」が70人（1.2%）、「短期大学」が54人（0.9%）、「専門職大学院課程」が53人（0.9%）、「学部レベルの研究生・聴講生」が52人（0.9%）、「大学院レベルの研究生」が50人（0.8%）である。

なお、本調査における「日本語教育機関」は、専修学校や準備教育課程を除く、日本語教育を実施する学校を指し、いわゆる「日本語学校」とほぼ同義である。

専攻分野別の回答者数は、「日本語」が1,984人（32.9%）、「社会科学」が1,515人（25.1%）、「工学」が669人（11.1%）、「人文科学」が475人（7.9%）である。

2. 主な学種・課程別の非漢字圏出身者、漢字圏出身者の回答の比較

本章では、『平成27年度私費外国人留学生生活実態調査』の回答を、主な学種・課程に分け、さらに漢字圏出身者・非漢字圏出身者別に比較分析した結果を示す。

(1) 国籍、専攻、日本語能力

表1は、日本語教育機関、専修学校（専門課程）、大学（学部、修士、博士の正規課程）における漢字圏出身者、非漢字圏出身者の割合と、非漢字圏出身者の国別内訳を示している。

	日本語教育機関		国別割合	専修学校		国別割合	学部正規課程		国別割合	大学院修士課程		国別割合	大学院博士課程		国別割合
	漢字圏	非漢字圏		漢字圏	非漢字圏		漢字圏	非漢字圏		漢字圏	非漢字圏		漢字圏	非漢字圏	
中国	620	0		380	0		1124	0		444	0		162	0	
韓国	92	0		51	0		278	0		33	0		28	0	
台湾	61	0		52	0		42	0		28	0		12	0	
ベトナム	0	292	38.5%	0	202	36.4%	0	120	33.1%	0	56	24.6%	0	14	7.9%
ネパール	0	156	20.6%	0	188	33.9%	0	37	10.2%	0	14	6.1%	0	7	3.9%
マレーシア	0	10	1.3%	0	7	1.3%	0	34	9.4%	0	15	6.6%	0	6	3.4%
インドネシア	0	33	4.3%	0	16	2.9%	0	39	10.8%	0	21	9.2%	0	28	15.7%
タイ	0	25	3.3%	0	16	2.9%	0	15	4.1%	0	21	9.2%	0	19	10.7%
アメリカ	0	11	1.4%	0	4	0.7%	0	15	4.1%	0	10	4.4%	0	1	0.6%
ミャンマー	0	36	4.7%	0	40	7.2%	0	17	4.7%	0	6	2.6%	0	12	6.7%
モンゴル	0	20	2.6%	0	14	2.5%	0	18	5.0%	0	5	2.2%	0	5	2.8%
バングラデシュ	0	23	3.0%	0	4	0.7%	0	2	0.6%	0	14	6.1%	0	14	7.9%
フィリピン	0	15	2.0%	0	8	1.4%	0	4	1.1%	0	1	0.4%	0	3	1.7%
スリランカ	0	40	5.3%	0	19	3.4%	0	11	3.0%	0	7	3.1%	0	6	3.4%
インド	0	6	0.8%	0	2	0.4%	0	2	0.6%	0	12	5.3%	0	12	6.7%
ロシア	0	14	1.8%	0	9	1.6%	0	1	0.3%	0	1	0.4%	0	1	0.6%
その他	0	78	10.3%	0	26	4.7%	0	47	13.0%	0	45	19.7%	0	50	28.1%
合計	773	759	100.0%	483	555	100.0%	1444	362	100.0%	505	228	100.0%	202	178	100.0%
漢字圏/非漢字圏	50.5%	49.5%		46.5%	53.5%		80.0%	20.0%		68.9%	31.1%		53.2%	46.8%	

注) 国別割合は、非漢字圏回答者中の割合を示す。

回答者全体（不明10名を除く）における漢字圏、非漢字圏出身者の割合は、71.3%、28.7%であるが、日本語教育機関ではほぼ半々、専修学校では非漢字圏出身者が半数を超え、博士課程でも非漢字圏出身者が半数近くを占めており、日本語教育機関、専修学校、大学院博士課程において、非漢字圏出身者が相対的に多いことがわかる。

非漢字圏出身者の国別内訳を見ると、日本語教育機関では、ベトナム、ネパールからの留学生が多く、スリランカ、ミャンマーが次ぎ、専修学校では、ベトナム、ネパールからの留学生が突出し、次いで、ミャンマー、スリランカが次ぎ、特定国への偏りが見られる。学部では、ベトナム出身者が3分の1を占め、インドネシア、ネパール、マレーシアが次ぎ、修士課程では、ベトナム出身者が4分の1で、インドネシア、タイが次ぐ。博士課程では、インドネシア出身者が15.7%と多いものの、2位以下のタイ、ベトナム、バングラデシュ、ミャンマー、インドの間にさほど大きな数の開きはなく、多様な国の出身者で構成されている。

表2は、主な学種・課程における非漢字圏出身者、漢字圏出身者の男女比を示している。日本語教育機関、専修学校、大学院修士課程では、漢字圏に比べ、非漢字圏出身者に男性が多い傾向が見られ、フィッシャーの正確確率検定³を行ったところ、専修学校では5%水準で有意差が見られた。

	日本語教育機関		専修学校		学部正規課程		大学院修士課程		大学院博士課程	
	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏
男	50.1%	55.0%	49.7%	56.2%	48.9%	49.3%	48.4%	56.0%	56.4%	53.2%
女	49.9%	45.0%	50.3%	43.8%	51.1%	50.7%	51.6%	44.0%	43.6%	46.8%
小計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
回答者数	761	723	477	534	1433	343	496	216	202	171

表3は、専修学校と学部、修士、博士課程における非漢字圏出身者、漢字圏出身者の専攻分野の割合を示している（日本語教育機関では日本語専攻者が100%であるので除く）。Pearsonのカイ2乗検定⁴で、いずれの学種・課程においても、漢字圏と非漢字圏出身者の回答に、1%水準で有意差が見られた（以下、指定のない場合、カイ2乗検定はPearsonによる）。大学では、非漢字圏出身者に工学専攻が多い傾向が見られ、修士、博士課程では、理学、農学、医学・歯学の専攻者割合も、漢字圏出身者より多い。博士課程では、漢字圏出身者の理系専攻が53%であるのに対し、非漢字圏出身では81.5%で、非漢字圏出身者の理系志向が顕著である。専修学校では社会科学と教育を専攻する非漢字圏出身者が多い。

「世界の成長を取り込むための外国人留学生の受入れ戦略」では、工学、医療、法制度、農学が受入れの重点分野として掲げられている。本調査では、社会科学の内訳が示されていないため法制度については不明であるが、工学と農学分野では、非漢字圏出身者の専攻割合が高いことが示された。

	専修学校		学部正規課程		大学院修士課程		大学院博士課程	
	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏
人文科学	8.9%	7.0%	13.8%	9.1%	13.9%	5.3%	15.3%	3.9%
社会科学	15.5%	23.4%	49.5%	43.9%	32.7%	26.3%	21.8%	7.3%
理学	0.6%	1.8%	2.8%	3.3%	4.6%	6.1%	9.4%	23.0%
工学	10.1%	11.4%	10.2%	20.7%	22.8%	34.2%	25.2%	30.3%
農学	0.0%	0.4%	1.0%	4.4%	3.8%	6.1%	5.0%	11.8%
医・歯学	0.4%	0.4%	0.7%	0.3%	0.6%	1.8%	13.4%	15.7%
薬学	0.2%	0.0%	0.3%	0.0%	0.8%	0.4%	0.0%	0.6%
家政	6.0%	4.1%	1.7%	0.6%	1.4%	0.4%	0.5%	0.0%
教育	1.7%	5.0%	2.0%	1.4%	7.3%	5.7%	2.5%	0.6%
日本語	23.8%	20.5%	3.0%	2.2%	0.6%	0.0%	1.0%	0.0%
その他	32.7%	25.9%	15.0%	14.1%	11.7%	13.6%	5.9%	6.7%
小計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
回答者数	483	555	1444	362	505	228	202	178

表4は、主な学種・課程における漢字圏出身者、非漢字圏出身者の日本語能力に関する資格保有者の割合を示している。全学種・課程において、カイ2乗検定で、1%水準で有意差が見られ、日本語能力試験N1（上級）取得者の割合は、すべての学種・課程において、漢字圏出身者が非漢字圏出身者を大きく上回っている。

日本語能力に関する資格を取得していない非漢字圏出身者の割合は、専修学校で24%、学部課程で20%、修士課程で39%、博士課程で67%に上り、J3~J5、N3~N5の中級以下の日本語レベルの資格取得者は、専修学校で32.6%、学部で12.2%、修士で14.8%、博士で18.2%に上る（漢字圏出身者ではそれぞれ7.9%、2.3%、0.8%、3.0%）。日本語能力資格を取得していない者の中に、日本語能力がゼロまたは低い者が相当数含まれると考えられ、J3以下、N3以下のレベルでは、日本語による授業の理解は難しいと考えられる。修士、博士課程では英語によるコースが数多く開設され、学部でも一部の大学で英語コースが開設されているところ、日本語能力が低い者の多くは英語コースに在籍すると推定される。専修学校では、日本語を専攻する者が約2割おり、日本語能力が低い者には、日本語を専攻する者が多いと推察される。しかし、専修学校で日本語を専攻する者の割合も、学部における英語コース在籍者の割合も、上記に示した日本語能力がゼロまたは低いと想定される非漢字圏出身者の割合を下回っており、彼らが日本語以外の専攻や英語コース以外で学ぶ場合、授業の内容を十分理解できるのかについて、気にかかるところである。

表4 日本語能力に関する資格（漢字圏・非漢字圏別、主な学種・課程別）

	日本語教育機関		専修学校		学部正規課程		大学院修士課程		大学院博士課程	
	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏
J1プラス	0.4%	0.0%	1.5%	0.2%	0.7%	0.0%	1.0%	0.4%	1.5%	2.3%
J1	0.4%	0.6%	1.0%	0.2%	2.6%	0.3%	1.8%	1.3%	3.0%	1.1%
J2	1.2%	1.4%	2.1%	0.9%	1.7%	4.4%	0.6%	1.3%	3.0%	0.6%
J3	0.9%	0.6%	0.8%	0.9%	0.1%	0.6%	0.0%	0.9%	0.0%	1.7%
J4	0.7%	0.4%	0.4%	0.4%	0.3%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%
J5	0.7%	1.0%	0.2%	0.6%	0.3%	0.6%	0.0%	0.4%	0.5%	0.0%
N1	43.0%	3.2%	32.6%	4.7%	57.4%	30.3%	65.5%	19.7%	51.5%	4.5%
N2	32.7%	26.5%	38.3%	37.4%	22.9%	33.1%	18.5%	23.3%	10.4%	6.3%
N3	3.0%	25.7%	4.8%	19.9%	1.3%	6.4%	0.8%	4.0%	1.5%	2.8%
N4	1.2%	6.2%	0.8%	3.9%	0.1%	1.9%	0.0%	5.8%	0.5%	6.8%
N5	0.8%	12.9%	0.8%	6.9%	0.1%	2.2%	0.0%	3.6%	0.5%	5.7%
取得していない	15.1%	21.6%	16.6%	24.0%	12.4%	19.7%	11.8%	39.0%	27.7%	67.0%
小計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
回答者数	767	721	481	537	1438	360	502	223	202	176

(2) 留学目的

表5は、留学目的に関する複数回答のうち、「最もあてはまるもの」を集計した結果を示している。

「就職に必要な技能や知識を身につけるため」を第1の留学目的とした者の割合は、すべての学種・課程において、非漢字圏出身者の方が高い。漢字圏に比べ、日本から遠い非漢字圏から日本留学する者は、卒業後のキャリアについても熟慮した上で留学する者が多いためと考えられる。日本語教育機関では、「日本で働く、もしくは日本企業に就職するため」という回答を選択した非漢字圏出身者の割合も高く、「学位を取得するため」という回答が過半数の漢字圏出身者の傾向と対照的である。カイ2乗検定で、漢字圏、非漢字圏出身者間に1%水準で有意差があったのは、日本語学校、修士、博士、5%水準で有意差があったのは、専修学校と学部であった。

表5 留学目的(学種・課程別、漢字圏・非漢字圏出身者別)

	日本語教育機関		専修学校		学部正規課程		大学院修士課程		大学院博士課程	
	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏
学位を取得するため	53.7%	30.5%	31.7%	25.0%	45.9%	45.0%	59.8%	52.2%	72.3%	67.4%
教養を身につけるため	10.2%	7.1%	16.1%	13.2%	13.0%	11.3%	11.7%	6.6%	5.4%	2.2%
就職に必要な技能や知識を身につけるため	15.7%	34.9%	23.8%	32.3%	10.2%	16.9%	6.9%	21.1%	3.5%	17.4%
日本で働く、もしくは日本企業に就職するため	7.2%	16.0%	17.2%	18.9%	10.1%	9.4%	5.3%	7.9%	3.0%	1.1%
国際的な経験をつんで、国際的な人脈を作るため	2.7%	2.5%	2.7%	2.3%	6.7%	8.3%	4.4%	2.6%	2.5%	2.8%
国際的な考え方を身につけるため	3.4%	2.2%	2.3%	1.3%	6.5%	3.6%	4.0%	3.5%	7.4%	3.4%
良い環境で研究を行うため	1.3%	0.4%	0.4%	0.5%	1.0%	1.1%	2.4%	5.3%	5.0%	4.5%
日本語能力を高めるため	4.1%	4.9%	3.5%	5.4%	3.9%	2.8%	3.2%	0.4%	0.5%	0.0%
異文化に接するため	1.2%	1.3%	1.9%	1.1%	2.4%	1.4%	2.0%	0.0%	0.5%	0.6%
その他	0.5%	0.1%	0.4%	0.0%	0.3%	0.3%	0.4%	0.4%	0.0%	0.6%
小計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
回答者数	773	757	483	555	1444	362	505	228	202	178

注)留学目的に関する複数回答のうち、「最もあてはまるもの」を集計。

表6は、日本を留学先として選んだ第1の理由の集計結果を示している。すべての学種・課程において、カイ2乗検定で漢字圏と非漢字圏出身者の回答間に1%水準で有意差が見られた。

表6 日本を留学先として選んだ第1の理由(学種・課程別、漢字圏・非漢字圏出身者別)

	日本語教育機関		専修学校		学部正規課程		大学院修士課程		大学院博士課程	
	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏
日本社会に興味があり、日本で生活したかったため	53.4%	46.2%	53.2%	47.1%	47.5%	47.5%	42.2%	33.3%	38.1%	22.5%
日本の大学などの教育や研究が魅力的だったため	14.7%	20.6%	9.3%	15.9%	12.5%	19.9%	18.2%	36.0%	26.7%	45.5%
地理的に近いため	5.8%	2.2%	7.7%	1.4%	9.6%	1.4%	7.9%	0.4%	6.4%	2.8%
興味ある専門分野があったため	6.6%	5.1%	8.7%	3.8%	4.9%	4.7%	7.9%	7.5%	8.4%	12.4%
異文化に接したかったため	3.1%	5.9%	4.6%	6.9%	4.2%	5.2%	2.8%	4.8%	1.0%	1.7%
日本語・日本文化を勉強したかったため	10.0%	12.7%	9.1%	16.1%	11.2%	9.7%	10.7%	5.7%	6.9%	2.2%
日本と関連のある職業に就きたかったため	2.8%	4.0%	3.1%	3.6%	1.7%	3.0%	0.4%	1.8%	0.0%	0.6%
奨学金を得られたため	0.1%	0.4%	0.0%	0.4%	0.3%	1.9%	0.6%	3.1%	0.5%	5.1%
友人、知人、家族などに勧められたため	1.8%	1.8%	3.5%	2.7%	4.8%	3.0%	3.8%	1.3%	5.4%	3.4%
大学間交流等をきっかけとして	0.1%	0.4%	0.4%	0.4%	0.8%	0.0%	3.0%	2.6%	3.5%	1.7%
他の国も考えていたが、学力や費用等の条件が一番合ったため	0.9%	0.5%	0.4%	1.6%	2.1%	2.2%	2.2%	3.1%	3.0%	1.7%
その他	0.5%	0.1%	0.0%	0.2%	0.3%	1.4%	0.4%	0.4%	0.0%	0.6%
小計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
回答者数	773	758	483	554	1443	362	505	228	202	178

注)日本を留学先として選んだ理由に関する複数回答のうち、「最もあてはまるもの」を集計。

「日本社会に興味があり、日本で生活したかったため」が、日本語教育機関、専修学校、学部課程において、漢字圏、非漢字圏共に最も回答者が多く、アニメや漫画などを通じた日本社会への関心が、特に若い層において、日本留学の動機につながっているためと考えられる。「日本の大学などの教育や研究の魅力」を選択した者の割合は、すべての学種・課程において非漢字圏出身者の方が高く、修士、博士課程では、36%、45.5%と日本留学の最も強い理由となっている。これは、中国、韓国、台湾で

は、世界大学ランキングの上位校が存在するなど、大学の研究や教育の質の向上が見られるのに対し、アジアの非漢字圏諸国の大学では、そこまでのレベルに達していないこと、また、ノーベル賞受賞者数などの日本の科学技術力が、日本の大学の研究力や教育力に関連付けて捉えられているためではないかと考えられる。

(3) 留学前の不安、苦勞、情報の入手方法

表7 日本に留学するにあたり最も不安に感じていたこと

	日本語教育機関		専修学校		学部正規課程		大学院修士課程		大学院博士課程	
	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏
日本の天候や食べ物、習慣に適應できるかどうか	12.5%	30.9%	17.8%	31.2%	13.0%	19.3%	9.5%	28.2%	10.9%	24.7%
自分の希望する学習ができるか、また、学習の成果を上げることができるか	49.0%	31.5%	41.9%	31.0%	34.6%	35.6%	41.2%	24.7%	42.6%	28.7%
周囲の人と良好な関係を築き、うまくコミュニケーションをとることができるか	14.0%	16.2%	16.4%	14.6%	21.9%	17.1%	20.4%	17.6%	14.9%	18.0%
適切な宿舎を確保できるかどうか	3.1%	1.3%	2.3%	2.2%	2.7%	2.8%	2.4%	3.1%	4.5%	2.8%
病気にかかったり、自然災害に遭ったりしないかどうか	5.1%	5.6%	5.4%	5.0%	5.3%	5.2%	5.3%	3.5%	5.0%	0.0%
孤独に感じたりホームシックになったりしないかどうか	2.5%	2.0%	2.1%	3.8%	2.6%	0.8%	2.8%	1.8%	3.0%	2.2%
経済的な困難に直面しないかどうか	6.6%	5.8%	6.0%	6.8%	9.8%	11.6%	10.7%	16.3%	13.9%	18.0%
特に不安はなかった	7.0%	6.4%	7.9%	5.4%	9.9%	7.2%	7.3%	4.0%	5.4%	5.1%
その他	0.1%	0.4%	0.2%	0.0%	0.3%	0.3%	0.4%	0.9%	0.0%	0.6%
小計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
回答者数	769	755	482	555	1442	362	505	227	202	178

注) 日本に留学するにあたり最も不安に感じていたことに関する複数回答のうち、「最もあてはまるもの」を集計。

表7は、日本に留学するにあたり最も不安に感じていたことに関する回答の集計結果を示している。カイ 2 乗検定で、漢字圏と非漢字圏出身者の回答間に、学部で5%水準、それ以外の学種・課程では、1%水準で有意差が見られた。漢字圏出身者においては、「自分の希望する学習ができるか、学習の成果を上げることができるか」がすべての学種・課程において、最大の不安要因になっているのに対し、非漢字圏出身者では、「日本の天候や食べ物、習慣に適應できるか」が、専修学校、修士課程で最大の不安要因となっており、日本語教育機関、学部、博士課程でも、この回答を選択した非漢字圏出身者の割合が、漢字圏出身者を上回っている。非漢字圏は、日本との風土、食べ物、習慣の差異が大きい国が多いため、これらの点に対する留学生への支援がより必要なことがわかる。

表8は、日本に留学するまでに最も苦勞したことの回答の集計結果を示している。情報の収集は、日本語教育機関、専修学校において、漢字圏と非漢字圏出身者共に、最も苦勞したこととして挙げられている。学部、修士、博士課程の非漢字圏出身者においては、最も苦勞したのは「日本語の学習」であり、日本語教育機関、専修学校においても3割を超える非漢字圏出身者が、この回答を選択している。留学資金の準備については、学部、修士、博士課程の非漢字圏出身者の回答率が、漢字圏出身者よりも多い傾向が見られる。カイ 2 乗検定の結果、専修学校では有意差がないものの、それ以外の学種・課程では1%水準で有意差が見られた。

表8 日本に留学するまでに最も苦労したこと

	日本語教育機関		専修学校		学部正規課程		大学院修士課程		大学院博士課程	
	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏
情報の収集	40.8%	34.7%	37.8%	37.6%	36.4%	28.9%	36.2%	28.6%	33.2%	22.7%
日本語の学習	23.0%	30.1%	34.4%	30.7%	31.0%	33.3%	26.6%	32.1%	28.2%	30.1%
留学先学校との事前連絡	9.2%	6.1%	6.2%	7.2%	7.3%	5.6%	13.5%	8.0%	11.9%	4.5%
留学ビザの取得	7.3%	10.5%	6.2%	6.5%	5.1%	4.2%	3.4%	4.0%	2.0%	5.7%
留学資金準備	10.5%	11.4%	11.6%	12.7%	12.9%	21.4%	11.1%	20.1%	19.3%	28.4%
入学試験	7.0%	2.9%	2.9%	3.3%	5.7%	5.0%	8.2%	4.0%	4.5%	2.3%
その他	2.2%	4.3%	0.8%	2.0%	1.5%	1.7%	1.0%	3.1%	1.0%	6.3%
小計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
回答者数	770	752	482	553	1438	360	503	224	202	176

注) 日本に留学するまでに最も苦労したことに関する複数回答のうち、「最もあてはまるもの」を集計。

表9は、日本に留学するまでに苦労したことの上位に挙げられていた日本留学情報に関する第1の入手方法について示している。カイ2乗検定で、博士以外の学種・課程では、漢字圏と非漢字圏出身者の回答間に、1%水準で有意差が見られた。日本語教育機関、専修学校、学部では、漢字圏出身者は、インターネットを利用する者の比率が高いのに対し、非漢字圏出身者は、日本留学フェア、教育展などで直接情報を入手した者の比率が高い。これは、漢字圏出身者は日本語のウェブサイトからの情報入手が比較的容易であるのに対し、非漢字圏出身者のうち、英語も日本語も不得手な者は、情報入手が困難であることも背景にあると思われる。

表9 日本留学前の第1の留学情報入手方法

	日本語教育機関		専修学校		学部正規課程		大学院修士課程		大学院博士課程	
	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏
日本留学フェア、教育展などに参加して	21.4%	22.5%	18.8%	33.4%	17.1%	24.4%	13.1%	15.4%	11.9%	12.4%
入学を希望する学校に直接問い合わせして	16.2%	16.0%	19.3%	15.0%	15.9%	14.4%	21.8%	23.2%	28.7%	21.3%
在外日本大使館等の在外公館に問い合わせして	0.9%	2.8%	2.5%	3.4%	1.0%	3.6%	0.6%	5.3%	1.0%	7.9%
母国の政府教育機関に問い合わせして	6.4%	2.5%	9.3%	2.2%	8.6%	3.3%	9.3%	4.4%	6.4%	5.1%
日本学生支援機構に問い合わせして	0.8%	0.7%	0.4%	1.1%	1.2%	1.7%	0.4%	0.0%	0.0%	0.6%
インターネットを利用して学校や日本学生支援機構のHPを検索	26.6%	16.4%	23.4%	14.6%	20.7%	17.5%	19.8%	17.5%	17.3%	18.0%
その他の民間団体に問い合わせして	9.5%	9.0%	9.1%	7.0%	9.4%	6.1%	9.3%	3.9%	2.0%	2.8%
日本の出版物を購入して	1.3%	0.9%	0.4%	1.6%	0.6%	0.6%	0.4%	0.4%	2.0%	1.7%
母国の学校や教員に相談して	6.4%	13.0%	6.2%	9.0%	13.1%	14.1%	14.7%	16.7%	13.4%	10.1%
親戚や友人に相談して	10.1%	15.0%	10.1%	12.5%	11.0%	13.6%	9.9%	11.8%	16.3%	19.1%
その他	0.4%	1.2%	0.4%	0.2%	1.3%	0.8%	0.8%	1.3%	1.0%	1.1%
小計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
回答者数	770	752	483	554	1442	361	505	228	202	178

注) 日本留学までの留学情報入手方法に関する複数回答のうち、「最もあてはまるもの」を集計。

修士、博士課程で入学を希望する学校への直接問い合わせが多いのは、指導教員の受入れ承諾が、大学院入学の際の前提条件になることが多いためと考えられる。

母国の学校や教員に相談、親戚や友人に相談、という項目も、漢字圏より、非漢字圏出身者でより高い傾向が見られ、「口コミ」が重要な情報源であることがわかる。

(4) 日本人への印象、留学への満足

表10は、日本留学後の日本人の印象の変化に関する回答の集計結果である。カイ2乗検定で、日本語教育機関、専修学校、学部では1%水準で、修士、博士課程では5%水準で有意差が見られる。漢字圏出身者では、「留学前から良かったが、留学後に特に変化はない」という回答が多いが、非漢字圏出身者では、「留学前から良かったが、留学後にさらに良くなった」という回答が多く、留学により親日的になる傾向が強いことが読み取れる。

	日本語教育機関		専修学校		学部正規課程		大学院修士課程		大学院博士課程	
	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏
留学前は悪かったが、留学後は良くなった	7.3%	11.5%	16.4%	16.1%	11.9%	4.5%	12.2%	5.0%	9.0%	1.7%
留学前から良かったが、留学後にさらに良くなった	26.8%	42.6%	27.2%	43.3%	30.3%	39.0%	36.6%	44.6%	44.5%	50.0%
留学前は良かったが、留学後に悪くなった	13.3%	10.0%	8.2%	9.0%	8.9%	15.7%	6.4%	6.3%	4.5%	7.5%
留学前から悪かったが、留学後にさらに悪くなった	0.5%	0.5%	0.4%	0.7%	0.5%	0.3%	0.6%	0.0%	0.5%	0.6%
留学前から良かったが、留学後に特に変化はない	51.4%	34.7%	47.2%	30.0%	47.6%	39.6%	43.8%	42.8%	41.5%	39.7%
留学前から悪かったが、留学後に特に変化はない	0.7%	0.8%	0.6%	0.9%	0.8%	0.8%	0.4%	1.4%	0.0%	0.6%
小計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
回答者数	762	733	475	547	1430	356	500	222	200	174

表11は、日本に留学して良かったかを尋ねた回答の集計結果を示している。カイ2乗検定で、日本語教育機関の漢字圏と非漢字圏出身者間に1%水準で有意差が見られるが、他の学種・課程では有意差はない。日本語教育機関では、非漢字圏出身者で「留学して悪かった」という回答が2.3%と、漢字圏出身者の5.7倍に上り、博士課程でも2.8%と漢字圏出身者の2.8倍に上り、このような回答を選択した原因を解明する必要がある。

	日本語教育機関		専修学校		学部正規課程		大学院修士課程		大学院博士課程	
	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏
良かった	91.5%	89.2%	90.2%	88.1%	92.0%	90.3%	92.7%	93.0%	95.0%	89.2%
悪かった	0.4%	2.3%	1.7%	1.1%	0.8%	1.4%	0.6%	0.9%	1.0%	2.8%
どちらとも言えない	8.1%	8.5%	8.1%	10.8%	7.2%	8.3%	6.7%	6.1%	4.0%	8.0%
小計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
回答者数	762	733	475	547	1430	356	500	222	200	174

(5) 日本へ来てからの苦勞、在籍校への不満

表12は、日本に来てから最も苦勞したことを示す。漢字圏と非漢字圏出身者共に、「物価が高い」がすべての学種・課程で、最も苦勞したこととして選択され、博士課程以外では、非漢字圏出身者の回答選択率の方が高い。「日常生活における母国の習慣との違い」は、学部を除く全学種・課程で、非漢字圏出身者の回答選択率が高い。「宿舎探し」「英語の習得」については、漢字圏出身の方が、回答選択率が高い傾向が見られる。カイ2乗検定で、日本語教育機関と学部の漢字圏と非漢字圏出身者間に1%水準で、専修学校では5%水準で有意差が見られる。

表12 日本に留学してから最も苦労したこと

	日本語教育機関		専修学校		学部正規課程		大学院修士課程		大学院博士課程	
	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏
物価が高い	65.0%	71.9%	65.2%	73.0%	54.2%	64.3%	57.9%	62.7%	62.2%	59.4%
日常生活における母国の習慣との違い	6.0%	11.5%	9.4%	11.8%	11.8%	9.1%	9.4%	11.8%	7.1%	12.1%
宿舎などを探すこと	8.8%	3.9%	6.0%	3.4%	6.3%	5.4%	6.8%	1.8%	10.2%	2.4%
宿舎などにおけるルールを守ること	1.9%	1.3%	2.1%	0.8%	1.8%	1.7%	1.0%	1.4%	2.0%	1.2%
日本語の習得	7.3%	4.8%	7.5%	5.1%	8.7%	4.9%	9.2%	8.6%	6.1%	9.1%
英語の習得	3.5%	1.5%	3.2%	1.8%	5.8%	1.7%	3.7%	1.4%	2.6%	2.4%
学校内で日本人学生と交流できないこと	3.4%	2.5%	2.4%	1.6%	4.8%	7.1%	6.2%	8.2%	4.6%	6.7%
学校の教員、職員とのコミュニケーションが取れないこと	0.7%	0.3%	0.9%	0.8%	0.9%	0.9%	0.8%	0.5%	0.5%	2.4%
学校の授業についていくこと	1.0%	1.0%	1.1%	0.6%	3.2%	3.1%	3.3%	2.7%	2.6%	1.8%
その他	2.3%	1.3%	2.1%	1.2%	2.6%	1.7%	1.6%	0.9%	2.0%	2.4%
小計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
回答者数	735	688	466	507	1407	350	487	220	196	165

注) 日本に留学してから苦労したことに関する複数回答のうち、「最もあてはまるもの」を集計。

表13は、在籍する学校の「悪いところ」の集計結果である。カイ2乗検定で、専修学校以外の学種・課程で漢字圏と非漢字圏出身者間に1%水準で有意差がある。非漢字圏出身者は「クラブ活動等の課外活動」に関する不満が強い傾向が見られ、博士課程では、「学生のサポート体制」への不満も強い。漢字圏出身者では、「福利厚生」に関する不満が、学部、修士、博士において、非漢字圏出身者よりも強い。「その他」を選択した者も多いが、その内容は本調査では確認されていない。

表13 在籍する学校への不満

	日本語教育機関		専修学校		学部正規課程		大学院修士課程		大学院博士課程	
	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏
学生のサポート体制	11.2%	10.8%	9.5%	10.0%	10.7%	14.2%	12.0%	9.5%	11.9%	24.4%
学修環境	16.5%	19.6%	16.2%	11.9%	11.3%	11.0%	9.7%	6.6%	8.9%	11.1%
研究内容	8.2%	8.6%	10.7%	11.6%	7.3%	11.4%	5.1%	10.2%	0.0%	7.8%
福利厚生	14.9%	8.8%	14.7%	13.9%	23.8%	14.6%	25.3%	10.9%	31.9%	12.2%
クラブ活動等の課外活動	21.9%	30.4%	26.0%	34.8%	20.3%	22.8%	20.7%	27.0%	17.0%	23.3%
その他	27.2%	21.8%	22.8%	17.7%	26.6%	26.0%	27.3%	35.8%	30.4%	21.1%
小計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
回答者数	562	408	346	310	1096	246	392	137	135	90

(6) アルバイトと経済状況

表14はアルバイト従事率を示している。日本語教育機関、専修学校、学部では、非漢字圏出身の方が、アルバイトに従事している者が多く、修士、博士課程では、漢字圏出身者のアルバイト従事率が高い。フィッシャーの正確確率検定で、すべての学種・課程において、1%水準で有意差がある。

表14 現在アルバイトをしていますか

	日本語教育機関		専修学校		学部正規課程		大学院修士課程		大学院博士課程	
	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏
はい	63.2%	93.2%	71.8%	93.1%	74.5%	81.6%	70.9%	58.4%	68.3%	49.7%
いいえ	36.8%	6.8%	28.2%	6.9%	25.5%	18.4%	29.1%	41.6%	31.7%	50.3%
小計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
回答者数	766	748	482	554	1430	359	502	226	199	177

表15は、アルバイトに従事すると回答した者の週あたりのアルバイト時間数を示している。日本語教育機関、専修学校、学部では、修士、博士に比べ、より長時間のアルバイトをする傾向が強く、非漢字圏出身者は、漢字圏出身者よりもその傾向が強く、週20時間以上アルバイトをする者の割合は、日本語教育機関では77.8%、専修学校では、75.4%に上っている。カイ2乗検定で、すべての学種・課程において、漢字圏と非漢字圏出身者間に1%水準で有意差がある。

表15 週あたりのアルバイト時間

	日本語教育機関		専修学校		学部正規課程		大学院修士課程		大学院博士課程	
	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏
5時間未満	2.7%	3.4%	4.1%	4.9%	3.8%	7.8%	8.7%	17.2%	10.5%	13.3%
5時間～10時間未満	6.1%	2.8%	4.9%	3.9%	10.7%	9.9%	14.5%	20.5%	27.8%	25.3%
10時間～15時間未満	20.0%	4.8%	9.9%	4.1%	20.2%	12.1%	26.4%	15.6%	19.5%	18.1%
15時間～20時間未満	22.3%	11.1%	22.1%	11.5%	27.9%	23.0%	24.3%	16.4%	27.1%	10.8%
20時間～25時間未満	37.8%	47.8%	41.3%	44.1%	29.1%	34.8%	19.1%	17.2%	11.3%	21.7%
25時間以上	11.1%	30.0%	17.7%	31.3%	8.3%	12.4%	7.0%	13.1%	3.8%	10.8%
小計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
回答者数	476	667	344	485	1040	282	345	122	133	83

表16は、アルバイトに従事する者のアルバイト理由を示している。全学種・課程で「日本での生活を維持するために必要」という回答が最も多く、漢字圏より非漢字圏出身者で本回答の選択率が高い傾向が見られ、日本語教育機関と専修学校では、カイ2乗検定で、1%水準で有意差がある。

表16 アルバイト理由

	日本語教育機関		専修学校		学部正規課程		大学院修士課程		大学院博士課程	
	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏
日本での生活を維持するために必要だから	58.9%	72.3%	63.8%	75.4%	72.0%	79.2%	77.7%	79.5%	81.6%	86.2%
日本人との交流等良い機会になるから	32.4%	22.9%	29.6%	18.7%	20.5%	16.4%	18.9%	13.6%	12.5%	5.7%
教養・娯楽にあてる費用を得るため	6.9%	2.9%	5.2%	5.5%	6.1%	3.1%	2.8%	3.8%	3.7%	2.3%
その他	1.9%	1.9%	1.4%	0.4%	1.5%	1.4%	0.6%	3.0%	2.2%	5.7%
小計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
回答者数	766	748	482	554	1430	359	502	226	199	177

表17は、主な収入と支出の内訳及び合計額を示している。仕送りについて、日本語教育機関、専修学校では1%水準で、学部では5%水準で、漢字圏よりも非漢字圏出身者の仕送り額が有意に少なく、回答者数も少ない。アルバイト収入については、日本語教育機関、専修学校、学部で、漢字圏よりも非漢字圏出身者の回答額が多い(1%水準の有意差)。収入合計については、日本語教育機関、専修学校で、漢字圏よりも非漢字圏出身者の回答額が少ない(1%水準の有意差)。

支出のうち、食費と住居費については、日本語教育機関、専修学校、学部で、漢字圏よりも非漢字圏出身者の回答額が少ない(1%水準の有意差)。支出合計についても、日本語教育機関、専修学校で、漢字圏よりも非漢字圏出身者の回答額が少ない(1%水準の有意差)。

日本語教育機関、専修学校、学部で学ぶ非漢字圏出身者が、仕送りが少ない中、食費、住居費を切り詰め、アルバイト収入に頼って生活している状況がうかがえる。

表17 主な収入と支出

	日本語教育機関		専修学校		学部正規課程		大学院修士課程		大学院博士課程				
	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏			
親・兄弟、親戚からの仕送り (仕送り回答者数)	102,812 638	65,579 446	**	96,234 373	62,751 349	**	54,129 1155	47,502 217	*	71,635 359	66,689 93	64,024 92	71,929 47
アルバイト (アルバイト回答者数)	75,641 480	92,802 659	**	82,050 343	93,007 480	**	62,615 1055	67,806 286	**	53,602 361	56,959 123	51,280 136	61,073 81
収入合計	148,538	136,764	**	166,088	151,932	**	141,533	136,920		128,730	129,936	127,618	131,089
回答者数	723	682		441	494		1373	347		481	212	194	170
授業料	53,984	54,757		66,129	56,235		58,076	58,026		44,719	47,103	34,727	44,669
食費	31,414	23,840	**	31,818	24,267	**	27,736	25,109	**	29,420	29,264	32,573	32,678
住居費	43,537	31,263	**	42,908	31,749	**	36,341	33,121	**	31,627	33,565	34,099	29,261
支出合計	148,071	131,528	**	166,063	145,340	**	141,904	137,731		127,146	130,362	126,719	129,566
回答者数	727	685		446	495		1357	338		478	218	196	172

注1) ** t 検定で1%水準で有意差、* t 検定で5%水準で有意差。
 注2) 仕送りの外れ値を70万円以上、アルバイトの外れ値を50万円以上、収入の外れ値を150万円以上、収入と支出の欠損値を0に設定した。
 注3) 回答者数の単位は人、それ以外の箇所の単位は円。

(7) 卒業後の予定

表18は、卒業後の第1の希望の集計結果を示している。カイ2乗検定で、すべての学種・課程の漢字圏と非漢字圏出身者の回答間に、有意差がある。

表18 卒業後の第1の希望

	日本語教育機関		専修学校		学部正規課程		大学院修士課程		大学院博士課程	
	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏
日本において進学希望	85.2%	80.3%	38.3%	52.3%	32.8%	32.3%	24.7%	30.3%	8.5%	16.4%
日本において就職希望	10.0%	12.4%	53.2%	41.2%	50.6%	51.3%	54.1%	47.4%	52.7%	22.0%
日本において起業希望	0.3%	0.5%	1.0%	1.6%	2.4%	0.6%	2.2%	0.9%	1.0%	0.6%
出身国において進学希望	0.5%	1.6%	0.2%	1.3%	1.5%	1.9%	1.0%	4.4%	3.0%	7.9%
出身国において就職・起業希望	3.1%	2.1%	4.8%	2.2%	7.5%	3.1%	12.9%	10.1%	21.4%	39.5%
日本・出身国以外の国において進学希望	0.4%	0.3%	0.8%	0.0%	2.0%	4.7%	0.8%	1.8%	2.5%	0.6%
日本・出身国以外の国において就職・起業希望	0.0%	0.4%	0.4%	0.2%	0.2%	0.8%	0.6%	0.9%	1.5%	2.8%
まだ決めていない	0.5%	2.3%	1.2%	1.3%	3.0%	5.3%	3.8%	4.4%	9.5%	10.2%
小計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
回答者数	770	747	481	549	1432	359	503	228	201	177

注) 卒業後の予定に関する複数回答のうち、「最もあてはまるもの」を集計。

日本語教育機関の非漢字圏出身者は、漢字圏出身者よりも、日本での就職希望がやや強く、日本での進学希望が弱い傾向が見られる。専修学校では逆に、非漢字圏出身者は、漢字圏出身者よりも、日本での就職希望が弱く、日本での進学希望が強い傾向が見られる。学部においては、漢字圏、非漢字圏共に、半数程度が日本における就職を希望している。漢字圏出身者は、非漢字圏出身者よりも、出身国における就職・起業希望や日本での起業の希望が強く、非漢字圏出身者は、日本・出身国以外の国への進学希望が強い傾向が見られる。修士課程の非漢字圏出身者も、半数近くが日本で就職を希望しているが、その割合は漢字圏出身者よりも少ない。博士課程の非漢字圏出身者は、漢字圏出身者よりも、日本での就職希望が顕著に少なく、出身国での就職・起業希望や進学希望が多い傾向が見られる。修士、博士課程の非漢字圏出身者は、英語コースで学ぶ者が多く、日本語能力が低いことが、漢字圏出身者よりも、日本での就職希望者が少ない背景にあると思われる。

表19 進学の場合の進学先

	日本語教育機関		専修学校		学部正規課程		大学院修士課程		大学院博士課程	
	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏
大学院博士課程・博士後期課程	4.1%	3.9%	5.1%	6.1%	8.3%	12.2%	91.7%	87.7%	21.1%	3.1%
大学院修士課程・博士前期課程	25.8%	13.0%	19.4%	14.0%	65.9%	70.5%	6.3%	4.9%	15.8%	3.1%
専門職大学院課程	4.2%	13.3%	6.6%	14.7%	2.0%	5.0%	0.7%	1.2%	0.0%	18.8%
大学院レベルの研究生	2.3%	5.6%	7.7%	9.6%	20.1%	5.0%	0.0%	2.5%	5.3%	15.6%
学部正規課程	40.1%	16.6%	31.1%	23.2%	1.5%	2.2%	0.0%	1.2%	5.3%	0.0%
学部レベルの研究生・聴講生	2.6%	2.0%	3.1%	1.4%	0.6%	0.7%	0.7%	0.0%	26.3%	3.1%
短期大学	0.9%	4.1%	3.1%	3.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	15.8%	15.6%
専修学校	19.0%	36.2%	17.3%	19.8%	1.1%	1.4%	0.7%	1.2%	10.5%	3.1%
その他	1.1%	5.3%	6.6%	7.8%	0.6%	2.9%	0.0%	1.2%	42.1%	56.3%
小計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
回答者数	659	608	196	293	542	139	144	81	19	32

表19は、進学を予定する場合の希望する進学先を示している。カイ2乗検定で、日本語教育機関、学部、博士課程の漢字圏と非漢字圏出身者の間に有意差がある。日本語教育機関の非漢字圏出身者は、漢字圏出身者よりも、専修学校、短大、専門職大学院への進学希望が強く、学部、修士課程への進学希望が弱い傾向が見られる。学部の非漢字圏出身者は、漢字圏出身者よりも、修士、博士課程への進学希望が強く、大学院レベルの研究生となる希望が弱い傾向が見られる。専修学校では、漢字圏、非漢字圏出身者共に、大学への進学希望者が7割近くいるが、他の専修学校への進学予定者も2割近くに上る。

表20は、日本で就職を希望する者に、将来の予定を尋ねた結果を示している。カイ2乗検定で、専修学校と修士の漢字圏と非漢字圏出身者の間に、1%水準で有意差がある。専修学校と学部の非漢字圏出身者は、漢字圏出身者よりも、「日本で働いた後、将来は出身国に帰国して就職したい」という希望が強く、「日本で永久に働きたい」という希望が弱い傾向が見られるのに対し、修士の非漢字圏出身者は、漢字圏出身者よりも、「日本で永久に働きたい」という希望が強い傾向が見られる。しかし、博士課程では、この比率は下がり、「将来は出身国に帰国して就職したい」者が4割近くに上る。

表20 日本就職の場合の将来の予定

	日本語教育機関		専修学校		学部正規課程		大学院修士課程		大学院博士課程	
	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏
日本で永久に働きたい	30.1%	36.5%	44.3%	39.8%	30.4%	26.3%	22.0%	30.7%	39.5%	22.7%
日本で働いた後、将来は出身国に帰国して就職したい	42.7%	40.8%	25.5%	41.6%	36.2%	42.7%	48.1%	42.9%	32.3%	39.4%
日本で働いた後、将来は日本、出身国以外で就職したい	9.0%	8.8%	7.0%	7.0%	13.4%	11.8%	10.1%	4.3%	6.5%	9.1%
まだ決めていない	18.1%	13.9%	23.2%	11.5%	20.0%	19.1%	19.7%	22.1%	21.8%	28.8%
小計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
回答者数	365	375	357	399	982	262	345	140	124	66

表21は、日本で就職を希望する場合、何年働きたいかについての回答を示している。カイ2乗検定で、博士課程の漢字圏と非漢字圏出身者の間に、1%水準で有意差がある。博士の非漢字圏出身者は、漢字圏出身者よりも、1~3年未満の比較的短い期間の就職を希望する者が多い。

	日本語教育機関		専修学校		学部正規課程		大学院修士課程		大学院博士課程	
	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏
1年未満	1.6%	2.6%	2.2%	3.5%	0.9%	0.8%	0.6%	2.1%	0.0%	4.6%
1年～3年未満	21.3%	16.8%	10.4%	10.7%	14.2%	15.8%	18.1%	16.2%	7.9%	26.2%
3年～5年未満	25.3%	26.5%	21.2%	25.1%	25.5%	31.3%	27.8%	31.0%	19.8%	24.6%
5年～10年未満	22.3%	26.2%	22.8%	24.4%	24.1%	26.4%	23.5%	23.2%	25.4%	23.1%
10年以上	29.4%	27.8%	43.4%	36.3%	35.3%	25.7%	30.1%	27.5%	46.8%	21.5%
小計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
回答者数	367	381	364	402	990	265	349	142	126	65

表22は、日本で就職を希望する者に、就職活動に関する第1の改善希望を尋ねた結果を示している。博士課程以外の学種・課程で、漢字圏と非漢字圏出身者の間に1%水準で有意差がある。非漢字圏出身者は、漢字圏出身者よりも、「留学生を対象とした就職に関する情報の充実」を求める者が多く、特に修士、博士課程では、最も強い要望となっている。学校における留学生を対象とした就職説明会の充実、特に専修学校で、非漢字圏出身者の強い要望となっている。

	日本語教育機関		専修学校		学部正規課程		大学院修士課程		大学院博士課程	
	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏
在留資格の変更手続きの簡素化、手続き期間の短縮化	52.7%	32.7%	55.9%	34.9%	44.6%	30.5%	42.5%	28.2%	37.0%	31.3%
在留資格の変更が弾力的に認められるよう規制緩和	16.3%	15.8%	12.9%	13.6%	13.2%	11.8%	13.4%	13.4%	18.1%	10.4%
留学生を対象とした就職に関する情報の充実	17.7%	29.6%	19.8%	27.4%	21.4%	28.2%	23.1%	35.9%	23.6%	32.8%
学校における留学生を対象とした就職説明会の充実	4.3%	7.4%	2.5%	10.6%	4.6%	8.4%	6.0%	5.6%	4.7%	9.0%
学校の留学生に対する就職相談窓口の充実	2.2%	3.7%	0.8%	2.8%	2.8%	4.2%	2.6%	2.1%	3.1%	4.5%
企業においてもっと留学生を対象とした就職説明会を開催してほしい	4.3%	5.0%	5.0%	6.0%	6.7%	7.6%	7.1%	4.9%	6.3%	4.5%
留学生を対象としたインターンシップの充実	1.4%	4.0%	2.5%	3.5%	6.0%	6.9%	5.4%	8.5%	7.1%	3.0%
その他	1.1%	1.8%	0.6%	1.3%	0.7%	2.3%	0.0%	1.4%	0.0%	4.5%
小計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
回答者数	368	379	363	398	996	262	351	142	127	67

注)日本での就職活動をする際の改善希望に関する複数回答のうち、「最もあてはまるもの」を集計。

3. 非漢字圏出身私費留学生に必要な配慮や支援に関する考察

以上の分析から、非漢字圏出身者のニーズと特徴について、次のような点が明らかになった。

- (1) 非漢字圏出身者の割合は、日本語教育機関、専修学校、博士課程において高い。
- (2) 日本語教育機関、専修学校、学部で学ぶ者と博士課程で学ぶ者の間には、出身国や日本語能力において大きな差異が見られ、修士課程で学ぶ者には、学部からの進学者と修士から入学した者がいるため、両者の特徴が混在していると考えられる。修士、博士課程から来日して入学した者の多くは英語コースで学び、比較的多様な国の出身者から構成される。これに対し、日本語教育機関、専修学校では、ベトナム、ネパール出身者が6～7割を占め、学部で学ぶ者は、ベトナム

出身者が3分の1、インドネシア、マレーシア、ネパール出身者が10%前後と、東南アジアの所得水準がやや高い国の学生の割合が増える傾向が見られる。

- (3) 大学の非漢字圏出身者は、理系分野、特に工学を専攻する傾向が強い。
- (4) 非漢字圏出身者は、漢字圏出身者に比べ、全学種・課程で、日本語能力が低い者の割合が高く、英語コースや日本語専攻でない場合、日本語による授業を十分理解できない者が相当数いることが懸念される。
- (5) 留学目的としては、卒業後の就職を意識した回答が、漢字圏出身者よりも多い。日本を留学先に選んだ理由として、日本の大学の教育や研究の魅力を挙げる者の割合が、漢字圏出身者よりも多い。しかし、留学前の情報の収集には、特に日本語教育機関と専修学校の在籍者が苦勞しており、日本語と英語の能力が不十分なためか、インターネットによる情報収集よりも、留学フェア、教育展や母校の学校、教員、友人など、情報を直接に入手できる機会を利用する傾向が強い。
- (6) 「留学後の日本人への印象が更に良くなった」という回答は、漢字圏出身者よりも多いが、「留学して良かったか」という問いに対して、日本語教育機関と博士課程の非漢字圏出身者で「悪かった」という回答が漢字圏出身者よりも多い。留学後最も苦勞をしたことについて、「物価が高い」と回答する者が多い。また、来日前から、「日本の天候、食べ物、習慣への適応」に不安を抱く者が多く、「日常生活における母国との習慣の違い」で苦勞したと答える者の比率も、学部以外で、漢字圏出身者よりも高い。在籍校への不満では、クラブ活動などの課外活動を挙げる者が多い。
- (7) 日本語教育機関、専修学校、学部の非漢字圏出身者は、漢字圏出身者に比べ、仕送りが少なく、食費と住居費を切り詰め、アルバイト収入に頼る傾向が強い。特に日本語教育機関、専修学校在籍者の食費は月2万4千円前後、住居費は月3万1千円前後と非常に低い。
- (8) 卒業後の予定について、日本語教育機関の非漢字圏出身者は、専修学校に進学を予定する者が相対的に多く、専修学校から大学に進学を計画する者も多い。日本語能力が低いため、日本語教育機関からすぐに学部課程に進学することが難しく、専修学校経由で大学進学を計画する者が多いと考えられるが、他の専修学校への進学予定者も2割程度存在する。
- (9) 学部では半数以上、修士では半数近く、専修学校では4割強の非漢字圏出身者が日本での就職を希望している。就職活動にあたって、非漢字圏出身者は、漢字圏出身者よりも、留学生向けの就職情報の充実を求める要望が強い。日本で永久に働きたいと回答する者は、学部では漢字圏出身者よりも少ないが、修士課程では漢字圏出身者よりも多い。博士課程では日本での就職希望者が少なく、出身国に戻って就職・起業を希望する者が多い。

以上より、非漢字圏出身の私費留学生は、日本語教育機関、専修学校、学部に在籍するグループと、修士、博士課程で学ぶグループに大別され、前者は、厳しい経済状態の中で、アルバイトをしながら生活する者が多いことが判明した。日本語教育機関、専修学校では、学費免除や奨学金獲得の機会も

限られるところ、彼らの中で勉学意欲が旺盛な者に対しては、経済的支援や進学のための支援を拡充する必要があると考えられる。また、特に日本語教育機関や専修学校の入学希望者に対し、留学フェア等の開催回数の増加や高校等への情報の送付、同じ国の先輩留学生を通じた母国語での情報発信を拡充する必要があると思われる。

日常生活における母国との習慣の違いで苦勞したと答える者や、クラブ活動などの課外活動を希望する者も多いところ、彼らの宗教、文化、習慣に配慮した対応を強化すると共に、特に、日本語学校や専修学校では、授業が中心となり、課外活動が少なくなりがちであるところ、課外活動で、日本人学生や他国からの学生と交流する機会を増やすことが必要だと考えられる。

日本語能力が低い学生も多いため、大学・学校において、彼らの日本語能力に配慮した補習教育や、母国語／英語での支援を拡充する必要がある。

大学で学ぶ非漢字圏出身者は、理系専攻が多く、日本社会の人材ニーズにマッチしており、彼らへの就職支援を拡充する必要がある。日本語能力が低くても情報が得られるよう、英語による就職情報の提供や、日本語能力が不十分でも就職できる職場情報の拡充が必要だと思われる。

上記のような非漢字圏出身留学生の誘致・教育・支援体制の強化を通じ、彼らが日本留学に満足し、その評判を通じて、次世代の非漢字圏出身の私費留学生が増えるといった、好循環の仕組みづくりが求められている。

注

- 1 ベトナム語の語彙には漢語からの借用語（漢越語）が多いが、現代ベトナム語では漢字を使用しておらず、中国語や韓国語の母語話者と比べ日本語の習得が遅いため（松田他，2008）、本稿ではベトナムを非漢字圏として扱う。
- 2 本調査は、日本学生支援機構の前身の日本国際教育協会時代に開始された。
- 3 クロス集計の統計検定の内、 2×2 のマス目での統計検定は、カイ2乗検定では不適切となることが多いため、フィッシャーの正確確率検定を用いた。
- 4 Pearson のカイ2乗検定は、カイ2乗検定の中で最も基本的で広く用いられる方法。観測された事象間に差がない確率を算出し、1%以下だと「1%水準で有意差」、5%以下だと「1%水準で有意差」と表現する。「1%水準で有意差」の方が、差異が大きいと判断される。

参考文献

- 戦略的な留学生交流の推進に関する検討会（2013）「世界の成長を取り込むための外国人留学生の受入れ戦略」（http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ryugaku/1342726.htm）＜2014年5月14日閲覧＞
- 日本学生支援機構（2016）『平成27年度私費外国人留学生生活実態調査』日本学生支援機構